

GHG 排出量見える化ツールの提供開始について

2021年9月21日
関西電力株式会社

当社グループは、ゼロカーボンビジョン2050に掲げるデマンドサイドのゼロカーボン化に向け最適なソリューションを提案・提供していくこととしています。

当社はこの度、グループ会社である K4Digital 株式会社と共同で、法人のお客さまに無料でご使用いただける「GHG 排出量見える化ツール」※（以降、本ツールという）を制作し、提供を開始しました。

本ツールは、CDP・RE100・SBT 等でも使用され、国際的に認められている GHG 排出量算定の基準である GHG プロトコルをベースに制作しており、エネルギー使用量等を入力することで、GHG 排出量が算定・グラフ表示され、GHG 排出量の見える化が可能となるものです。

「GHG プロトコルにおける自社の GHG 排出量を算定したい」「サプライチェーン全体を意識した GHG 排出量削減を検討したい」といったお客さまのご要望に対し、本ツールを起点に、コンサルティングや最適なソリューション提供を実施いたします。

また、本ツールについては、お客さまからのご意見や GHG を取り巻くルール変更や制度動向等をもとに必要に応じてバージョンアップを行うことで、機能の拡充を行ってまいります。

本取り組みを通じ、多様なゼロカーボンソリューションを展開することで、2050年のゼロカーボン社会の実現に貢献してまいります。

※：GHG は Greenhouse Gas(温室効果ガス)の略

以上

添付資料

GHG 排出量見える化ツールの概要

GHG 排出量見える化ツールの詳細およびダウンロードは当社 HP より
<https://sol.kepco.jp/decarbonization/>

GHG排出量見える化ツール～GHGプロトコル対応～

SCOPE 1～3をカバー！
サプライチェーンのGHG排出量を把握できる！

サプライチェーンの排出量 =



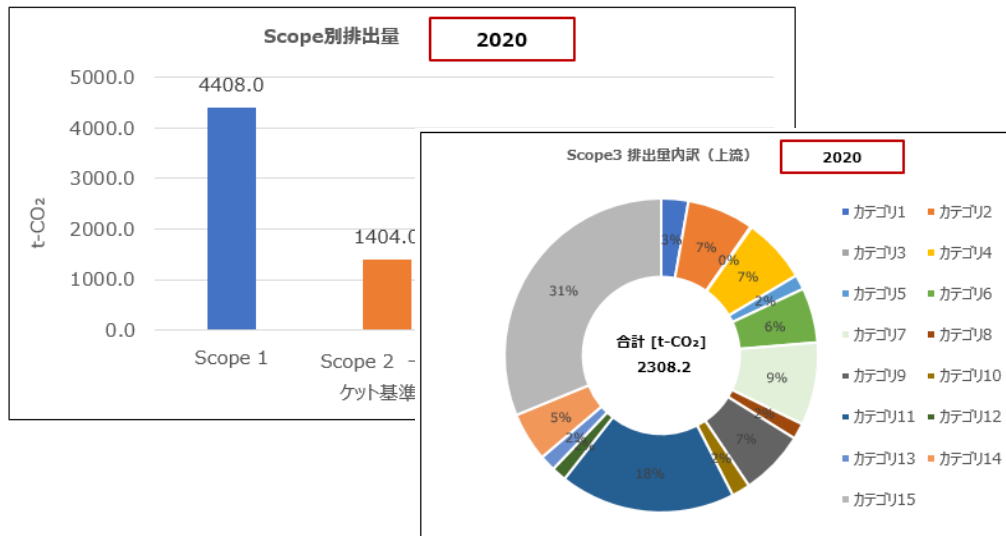
データ入力に便利な解説付き！
初めて算定される方も安心！

Scope1 事業者自らによる温室効果ガスの直接排出
 【概要(温対法報告対象の特定事業所排出量をベースに記載)】
 ○国内および海外において自社
 ○算定対象の大部分は温対法
 ⇒「自社所有の輸送手段の

Scope2 他社から供給された電気の使用に伴う間接排出—電気使用量—
 【概要】
 ○国内および海外において自社が
 ○算定対象の大部分は温対法の
 ⇒なお、「電力を使用する建設
 による排出等」については、注
 ○排出量の算定は以下8種類
 ・エネルギー起源二酸化炭素
 ・非エネルギー起源二酸化炭素
 ・メタン(CH4)
 ・一酸化二窒素(N2O)
 ・ハイドロフルオロカーボン類
 ・パーフルオロカーボン類(PFC)
 ・六フッ化硫黄(SF6)

Scope3 カテゴリ1 購入した製品・サービス
 【概要】
 ○自社が購入・取得した全ての製品（原材料・部品、仕入れ商品や販売に係る資材等）及びサービスとして、以下のものも含め、自社へ投入される原材料・部品、商品、サービス等の排出量も算定対象とします。ただし、以下の除外事項は除外されます。
 ・資源採取段階から一次サプライヤーまでの輸送については、注外することも可能です。カテゴリ分類、該当項目に関する整理は以下の通りです。
 ・一次サプライヤーから自社までの輸送はカテゴリ4にて算定します。
 ・購入した燃料・エネルギーの採取・製造等に係る排出量はカテゴリ3にて算定します。
 ・カテゴリ2～8に含まれるものは算定対象外となります。
 ・直接調達（事業者の製品の製造に直接関係する物品等）だけでなく、間接調達（事業者の製品の製造に間接関係する物品等）も算定対象となります。
 ○排出量の算定は以下のいずれかの方法により算定ください。（②のほうが高精度とすることが期待されています）
 ①自社が購入・取得した製品またはサービスに係る資源採取段階から製造段階までの排出量を算定する。
 ②算定方法はCO2 排出量 = Σ（（サプライヤーごとの排出量 × 購入・取得した製品の数量））
 ※購入・取得した製品またはサービスの物量・金額データに、製品またはサービスごとの資源採取段階別のCO2 排出量（t-CO2/単位）を乗算し、算定します。

GHG排出量が見えるグラフ化機能！
社内報告にも使える！



過去のGHG排出量との比較機能！
削減効果が見える！

